

■「漁父」と「屈原」の生き方の違いを理解する
■対句の特徴とその効果について理解する

漁父辞

屈原

1 屈原既放、遊於江

潭、行吟沢畔、顔色憔悴

、形容枯槁。漁父見之、曰、

「子非三閭大夫與、何

故至於斯。」

2 屈原曰、「举世皆濁、

我獨清、衆人皆醉、我

獨醒、是以見放。」

3 漁父曰、「聖人不凝滯

於物、而能與世推移、

其泥而揚其波、衆人

皆醉、何不舖其糟而

飲其醢、何故深思高

舉、自令放為。」

1 屈原既に放たれて、江潭に遊

び、行澤沢畔に吟ず。顔色憔悴

し、形容枯槁せり。漁父見て之

に問ひて曰はく、「子は三閭大夫

に非ずや。何の故に斯に至れる」

と。2 屈原曰はく「世を挙げて

皆濁れるに、我独り清めり。衆

人皆酔へるに、我独り醒めたり。

是を以て放たる」と。3 漁父曰

はく、「聖人は物に凝滯せずして

能く世と推移す。世人皆濁らば、

何ぞ其の泥を漉して其の波を揚

げざる。衆人皆酔はば、何ぞ其

の糟を舗ひて其の醢を飲らざる。

何の故に深く思ひ高く挙がりて、

自ら放たしむるを為すや」と。

4 屈原曰、吾聞之。『新

沐者必彈冠、新浴者

必振衣。』安能以身之

察察、受物汶汶者乎。

寧赴湘流、葬於江魚

之腹中、安能以皓皓

之白、而蒙世俗之塵

埃乎。」

5 漁父莞爾而笑、鼓

枻而去。乃歌曰、

滄浪之水清兮

可與之濯纓兮

滄浪之水濁兮

不可與之濯足兮

遂去、不復與言。

4 屈原曰はく、「吾之を聞けり。

『新たに沐する者は必ず冠を弾

き、新たに浴する者は必ず衣を

振るふ』と。安くんぞ能く身の

察察たるを以て物の汶汶たる者

を受けんや。寧ろ湘流に赴きて

江魚の腹中に葬らるとも、安く

んぞ能く皓皓の白きを以てして

世俗の塵埃を蒙らんや」と。

5 漁父莞爾として笑ひ、枻を鼓

して去る。乃ち歌ひて曰はく、「滄

浪の水清まば、以て吾が纓を濯

ふべし。滄浪の水濁らば、以て

吾が足を濯ふべし」と。遂に去

りて復た与に言はず。

訓読の注意

《返読する助動詞》

(返読文字は必ず下から返って読む文字)

「非」 ―ニあらず

子 非 三さん 閻りよ 大夫 与。

【 子は三閻大夫に非ずや。 】

※「与」 ―や 疑問形

「見」 ―る (受身)

是 以 見 放。

【 是を以て放たる 】

「令」 ―しム (使役)

自 令 放 為。

【 自ら放たしむるを為すや 】

※「為」なすや 疑問

《返読する助詞》

「与」 ―と

能 与 世 推 移。

【 能く世と推移す。 】

《名詞》

「与」 とも二

不 復 与 言。

【 復た与に言はず。 】

※「不」は返読文字 「復」また

《置き字》

「兮ケイ」 (調子を整える)

修辞法の注意

対句

① 対応する語の字数が同じ

② 文法的構造が一致

③ 意味が関連している

直対 (すぐ並んだ二句が対句を構成する)

顔 色 憔 悴、**形** **容** 枯 槁。

隔句対 (二句以上隔てた句どうしが

対句を構成する)

举 世 皆 濁、我 独 清。

衆 **人** 皆 醉、**我** **独** 醒。

※どちらも「対句」

読解の注意

1段落

何 故 至 於 斯。

◎ 「至於斯」（このようになった）

の「斯」とはどのようなように解釈するこ

とができますか。答えてみよう。

2段落

举 世 皆 濁、我 独 清。
衆 人 皆 醉、我 独 醒。

◎ 発言者を□で囲もう

◎ 「濁」「醉」はそれぞれ世の人々の

どのような様子を例えているのか説

明してみよう

場所（境遇・姿）

「濁」

人々が欲深く、汚れているこ

とのたとえ

☆何「故」——なんノゆゑニ

どういう理由で—か

「醉」

正常な判断ができないことの

たとえ

「屈原と楚」

戦国時代の楚は、秦の圧迫を受ける。屈原は、楚の政治改革を主張し、秦の侵襲を阻止しようとしたが、その理想が実現できず、ついに自死した。この物語は、屈原の忠義と理想の追求を描いている。

☆是「以」——ここヲもつテ

こういうわけで

※「以是」——これヲもつテ（このことによつて）

とは違う

3段落

聖人 不凝滯於物、
而能与世推移。

◎発言者を□で囲もう

◎漁父はなぜ屈原に「涴其泥」「舗其

糟」ように勧めたのか。それぞれ理

由を説明してみよう

「にじシテ 涴^二 其^一 泥^二」

周囲と同じように自身も汚れてしまえば、周りの汚れは気にならないから。

「くろヒテ 舗^一 其^一 糟^二」

周囲と同じように自身も酔ってしまえば、周りの酔いは気にならなくなるから。

☆何「不」なんゾーギル（疑問）

どうしてーしないのか。（ーすればいいのに）

※「詰問」の意味も含まれる

4段落

◎発言者を□で囲もう

寧赴湘流、葬於江
魚之腹中、安能以
皓皓之白、而蒙世
俗之塵埃乎。

◎発言から分かる屈原の生き方をまとめよう

世の中に合わせて自分の生き方を変えるくらいなら死んだ方がましだ。

☆寧^ロ A、不^{ストモ} B」むしろAストモBず

いつそAしても、Bはしない（選択）

☆安^{クン} A 乎」いづクンゾAんや

どうしてAするだろうか、いやAしない ※「ーん（や）」となれば反語

5段落

◎発言者を□で囲もう

漁父莞爾而笑、
鼓枻而去。

◎漁父はなぜ「莞爾」したのか。その

理由を説明してみよう

自分の考えを貫く屈原の生き方に感服したから。

◎歌から分かる漁父の生き方をまとめよう

周囲との調和を大切にし、臨機応変に生きる。

☆不^二復^一」 またーず（部分否定）

決してーしない。二度とはーしない

◎「屈原」と「漁父」のような生き方にはどのような長所・短所があるでしょうか。それぞれ答えましょう。

※生徒解答例

「屈原」

《長所》

- ・自分の意思が強い。
- ・他人に流されない。
- ・一人でも生きていける。
- ・自分の生き方ができる。

《短所》

- ・頑固で融通が利かない。
- ・自己中心的である。
- ・コミュニケーションがうまくとれない。

- ・敵を作りやすい。
- ・孤立しやすい。
- ・他人の意見を聞き入れない。
- ・行動が極端になる。

◎あなたは「屈原」と「漁父」のどちらの生き方に魅力を感じますか。

「漁父」

《長所》

- ・自由に生きることができる。
- ・世渡り上手
- ・周囲に受け入れられやすい。
- ・周囲との調和を保つことができる。
- ・臨機応変に生きることができる。
- ・平和に生きることができる。
- ・心が広い。

《短所》

- ・他人任せになる。
- ・周囲の悪い影響も受けやすい。
- ・自分の意思を出しにくい。
- ・個性がない。

◎あなたは屈原と漁父のどちらの生き方に共感しましたか。共感した人物名を①に入れ、①に「はげまし」の手紙を書いてみましょう。

①

さまへ

①

さまは

②

という生き方をされていますね。

私は

③



③

